

①ディレクトフォース

はじめに、義手のエンジニアでソニー(株)並びに NPO 法人 Mission ARM Japan で義手の開発と普及を進めている近藤玄大様からお話をいただきました。近藤氏曰く、ものづくりは映画製作に似ているとのこと。「多様な主題・主人公による劇中劇」という捉え方で一人ひとりのニーズに応えようとする近藤様の仕事への取り組み方は、将来ものづくりをしたい私にとっては新しい視点で、とても参考になりました。また、手がないことを個性にする、つまり、マイナスな面をプラスに変えていきたいという信念を、大学や企業で得た技術を応用して貫いていくのはすごいと感じ、私も将来同じように自分の信念を貫けるよう、勉強を頑張ろうと思いました。

角田様との対話では、私たちが事前にお伝えしていなかった質問をさせていただいた際、角田様が私たちの質問をきちんとメモしたうえで答えてくださりました。その、物事を整理して相手に伝える、相手を重んじる姿勢が勉強になりました。さらにご自身の人生や仕事についてのお話は自分の職業観を広げてくださいました。さらに、地球温暖化にむけて、様々な視点からの取り組むべきことを示してくださいました。今の自分にもできることは積極的に取り組んでいきたいと思います。

安達様は、世界を視野に入れた他者との接し方を教えてくださいました。教えてくださいました相手が何を考えているのか理解すること、相手の話を聞いて自分との違いに気付いて相手を自分の中で受け入れて関わること、筋書きを立てて効果的に相手に表現することができるようになること。これらを意識して、相手と関わる「訓練」や、理論・体系的に物事を捉えられるよう本を読むことを頑張っていきたいと思います。

太田様からは、大学進学やその先に待ち受ける就職について、役に立つことを学びました。私の中で心に残っていることは「楽しいことを仕事に」よりも「得意なことを仕事に」を重視すべきということと、夢を見つけたらその夢を叶えたモデルを見つける、ということです。私は、将来といえば大学進学のことしかあまり考えていなかったもので、就職を踏まえた大学選び、学部選びをしていきたいと思いました。

角田様、安達様、太田様の御三方に共通していたこととして、お願いしていないのにも関わらず、私たちが事前に質問させてもらったことについてメモをされていたり、資料にまとめてくださっていたりなど、準備に抜け目がないという物事に対する姿勢に私は圧倒され、御三方のような人になりたいと思いました。

②外務省

企業訪問では、国の重要な機関の一つである外務省を訪問しました。外務省では、日本の外交の全体像を捉えられるようになるために、2・3年の周期で職務が変わることに驚

きました。日本の外交の全体像を捉えなければならないほど重責であるとともに、必要不可欠な仕事だと思いました。また、スポーツ外交やレセプションなど、自分が思っていた以上に多くの業務があることにも驚きました。二高のOGの方にもお話を伺うことができ、人並み以上の努力は必要だけれども自分の可能性は案外あるものだと気付きました。自分の中で多くの気付きがあり、有意義な訪問となりました。

③二高OB・OGとの座談会

いろいろな学部学科に進学されたOB・OGの方々から、ご自身の経験や考えについてお話を伺うことができました。その中でも私は東京大学で宗教関連について学ばれた後、現在公務員として衆議院で働かれているOBの方のお話が印象に残りました。

受験に向けてのお話では、高い目標を掲げるように言われました。前向きに挑戦することが大事なのであって、失敗は恥ずかしくない上に、やらずに後で後悔するほうが良くないとも言われました。先日の東北大学のオープンキャンパスや2日目の東京大学での研修でも言われたことだったので実践していきたいです。

それから、勉強に関するお話では、ご自身のご経験から、学校の授業では比較的受動的な学習になってしまうので、互いに問題を教え合う仲間づくりをするなどの能動的な勉強、つまりアウトプットを重視することを教えてもらいました。この方法では、将来役に立つだろう、自分の意見で相手を納得させる力、相手の話を集中して聞ける力などが鍛えられるそうです。これは、普段から数学の授業等で二高の先生方がラーニングピラミッドなどを通して私たちにおっしゃっていることと重なることでした。さらに、有酸素運動をすることや、成長期には成長を促し、成長期が過ぎてからは疲労を軽減する働きがある成長ホルモンが22：00～2：00に多く分泌されることなどから、高校生の時期はもちろんのこと、大人になってからも生活のリズムを整えることの大事さを説かれました。このことも、二高入学後に保健室の先生から言われてきたことです。

以上のように、普段身近な人などから言われていることがいかに大切だったか、ご自身の経験を踏まえて教えていただけたので、これから、この研修前よりも注意深く周りの方々の話を聞いていこうと思いました。また、外務省の時と同様、今の自分の環境や可能性が恵まれていると感じ、恵まれていない人の分まで頑張らなければならないと思いました。また、留学について、どのOB・OGの方に伺っても留学すべきというお話でした。ただ、留学された方からは、まず外国ではなく母国である日本について興味を持つべきだと言われました。留学先では必ずと言っていいほど日本のことを聞かれたり、日本から見た留学先の国や留学先の国から見た日本、あるいは世界から見た日本などについて話し合ってみたりするそうで、その時に日本について語れるようにした方が日本について深く知る機会にもなるので良いということだそうです。将来私は留学してみたいのでとても参考になりました。

④FairWindによる東京大学見学

東京大学見学では、ワークショップと、研究室訪問が印象に残っています。ワークショップでは FairWind の2人の方の進路選択のお話を聞くことができました。

1人目の方は、高校入学時の段階で夢がある程度決まっていたため、夢を叶えるためにはどうすればいいのか逆算して進路を選択されたそうです。この方のお話で私が参考にしたいと思った点は、大学を選ぶ際には自分の中で必要で譲れないものを決められたことです。だから私は、これから今回の研修で得た情報に加えて多くの情報を得て、「自分にとって譲れないもの」を見定めていきたいと思います。

2人目の方は、自分のしたいことがなかなか決まらなかったときに東大の進路選択（2年時の夏ごろに成績に応じて学部学科を決定する仕組み）を知り、なんとなく興味のあった教育方面の勉強をしてみたかったらしいのですが、自分の性格上しっかりとした動機が欲しいということで、動機付けをして東京大学を受験することにされたそうです。今の自分の志望はなんとなくの要素が大きいので、この方のように、自分も周りも納得できる動機付けをしたいと思います。

研究室訪問では、農学部の3つの研究室を見学させていただきました。東京大学は企業がスポンサーになっている研究が多く取り組まれている上に、日本の大学の中で最もお金を貰っていることもあり、3つの研究室だけでも、日常生活では考えられない額の研究のための機械がたくさんありました。1つの研究室でも多くの実験が行われていて、さすが研究分野で論文が日本で一番引用されている大学だと思いました。訪問した日はもう大学生も夏休みだったそうなのですが、多くの大学生がキャンパスに来ていたので、施設面に限らず、自分をさらに高められる周りの仲間がいて、日本の中であれば研究環境は最高だろうと感じました。私も、できるのであればこのような環境で研究してみたいと思いました。

今回の東京研修では、日頃会うことのできない多くの方々と接する機会があり、自分の価値観が大きく変わることができた良い経験となりました。このような機会を作ってくくださった皆様に心から感謝しております。ありがとうございました。